

## 日本・世界の経済

執筆 日本政策総研 主席エコノミスト 村井慎吾

(監修)北海道大学名誉教授 宮脇 淳

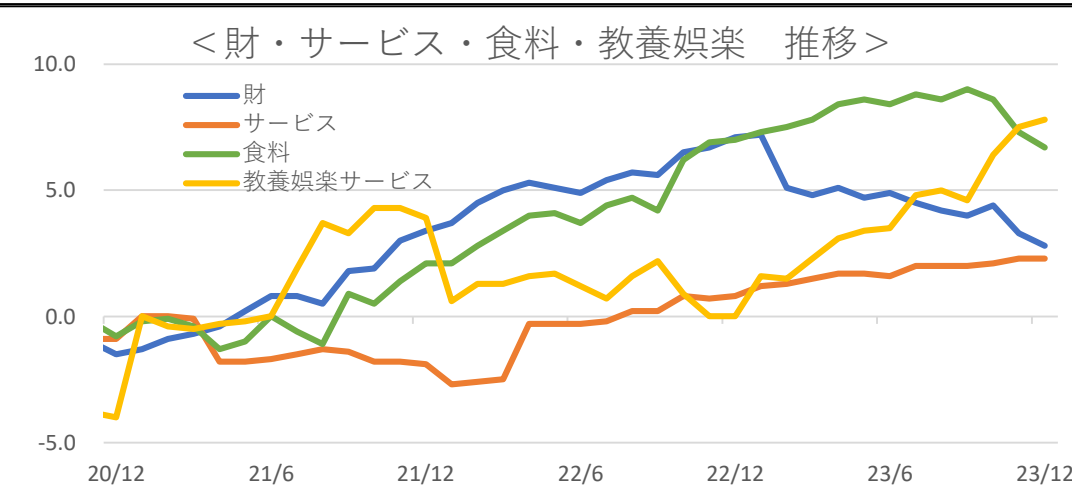
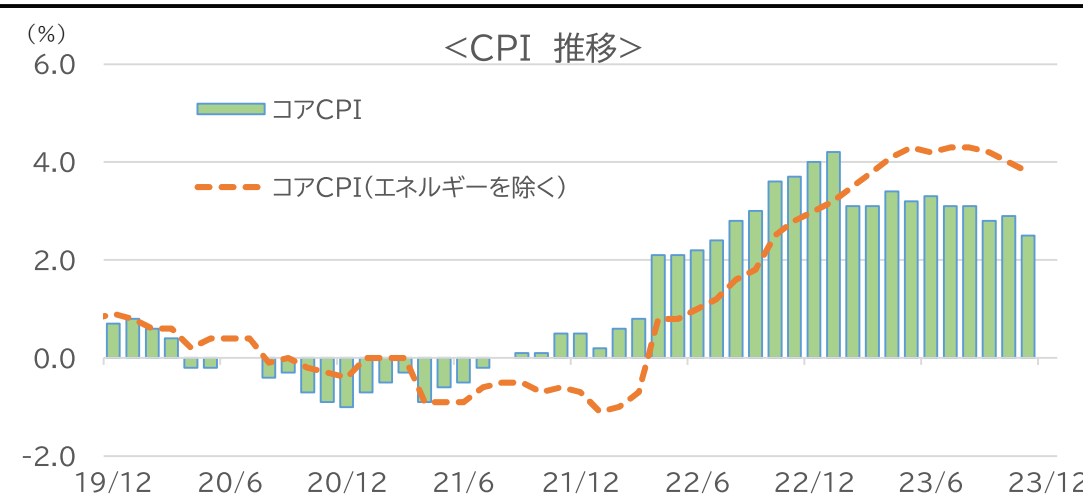
### 12月日本 消費者物価指数

2024/1/22 第 84 号

朝日田コーポレーション

●メールアドレス: info@sapporo-php.co.jp

●ホームページ: http://www.sapporo-php.co.jp:



(資料)総務省、厚生労働省資料より作成。

総務省が発表した全国消費者物価指数(生鮮食品を除く)(コア CPI)によると、1月は前年同月比で+2.3%と2か月連続で低下し、日銀が政策目標として掲げる2%の水準に近づいた。政府による電気・ガス代補助の影響を除き、より基調を見るうえで重要な、コア CPI からエネルギーを除いたベースでも、前年同月比3.7%と4か月連続で低下した。

内訳をみると、これまで上昇が継続していた「食料」の上昇が峠を越え、上昇幅を縮小し始めたことなどを中心に財(モノ)価格の鈍化が継続しており、全体を下押しした。一方、宿泊費やレジャー関連費が含まれる「教養娯楽サービス」の伸びが継続する中で、サービス価格の上昇が継続している。インバウンドや国内人手不足が継続するなかで、当面はサービス価格が物価全体を下支え、物価の基調は緩やかに低下していく可能性が高い。